

第2章 長野市の文化芸術振興の現状と課題

1 長野市文化芸術に関する市民アンケート（令和7年9月）実施概要

令和7年度 まちづくりアンケートのテーマⅣ 「文化芸術について」

目的 市民による文化芸術活動への参画状況や文化芸術鑑賞の機会などを調査し、社会情勢や市民ニーズに即した文化芸術振興施策を令和9年度から始まる第三次長野市文化芸術振興計画に反映させるため、調査を実施するもの。

調査対象 市内在住の20歳以上の男女

有効標本数 5,000通

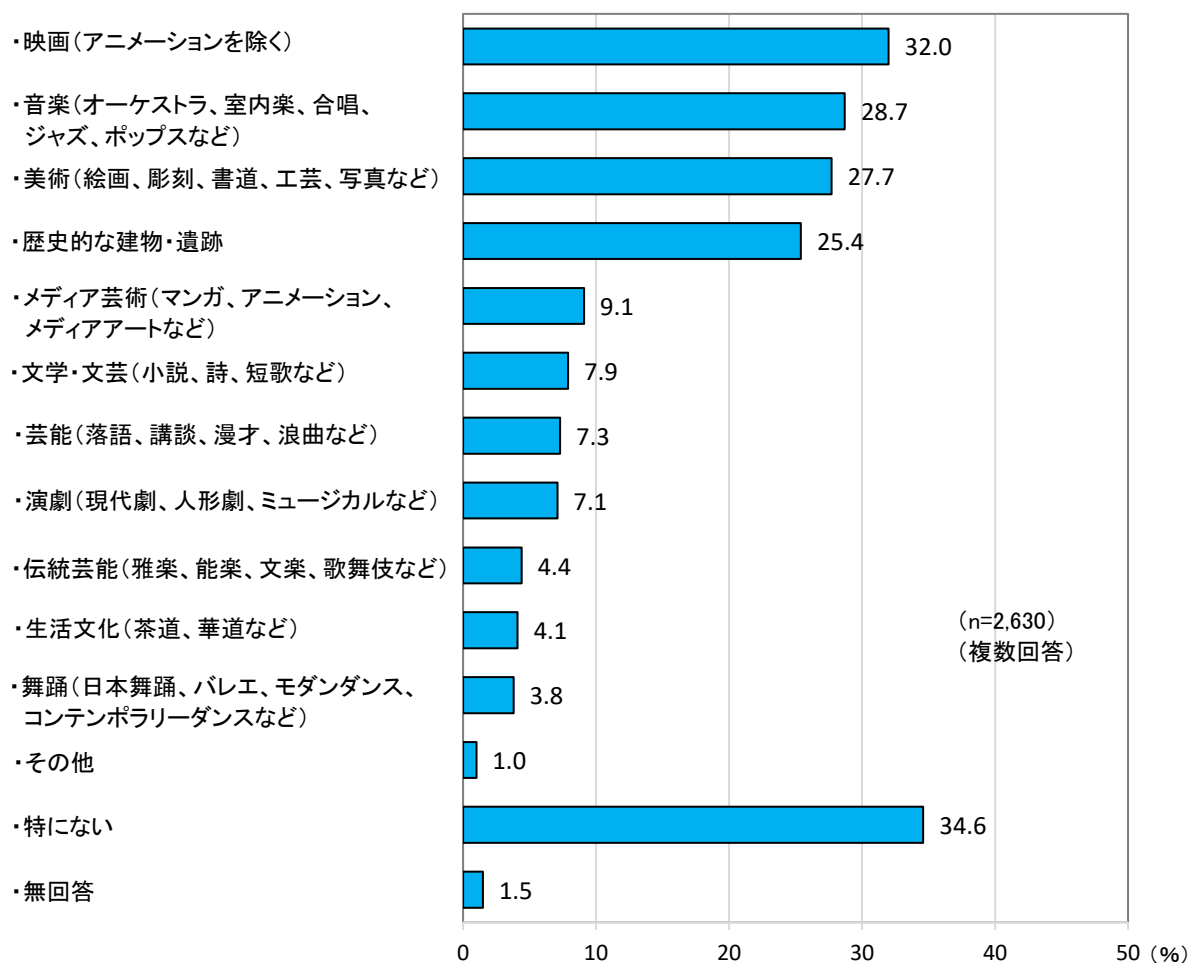
回収標本数 2,630通

回収率 52.6%

調査内容

問1 この1年間の文化芸術の鑑賞、創作・実践について

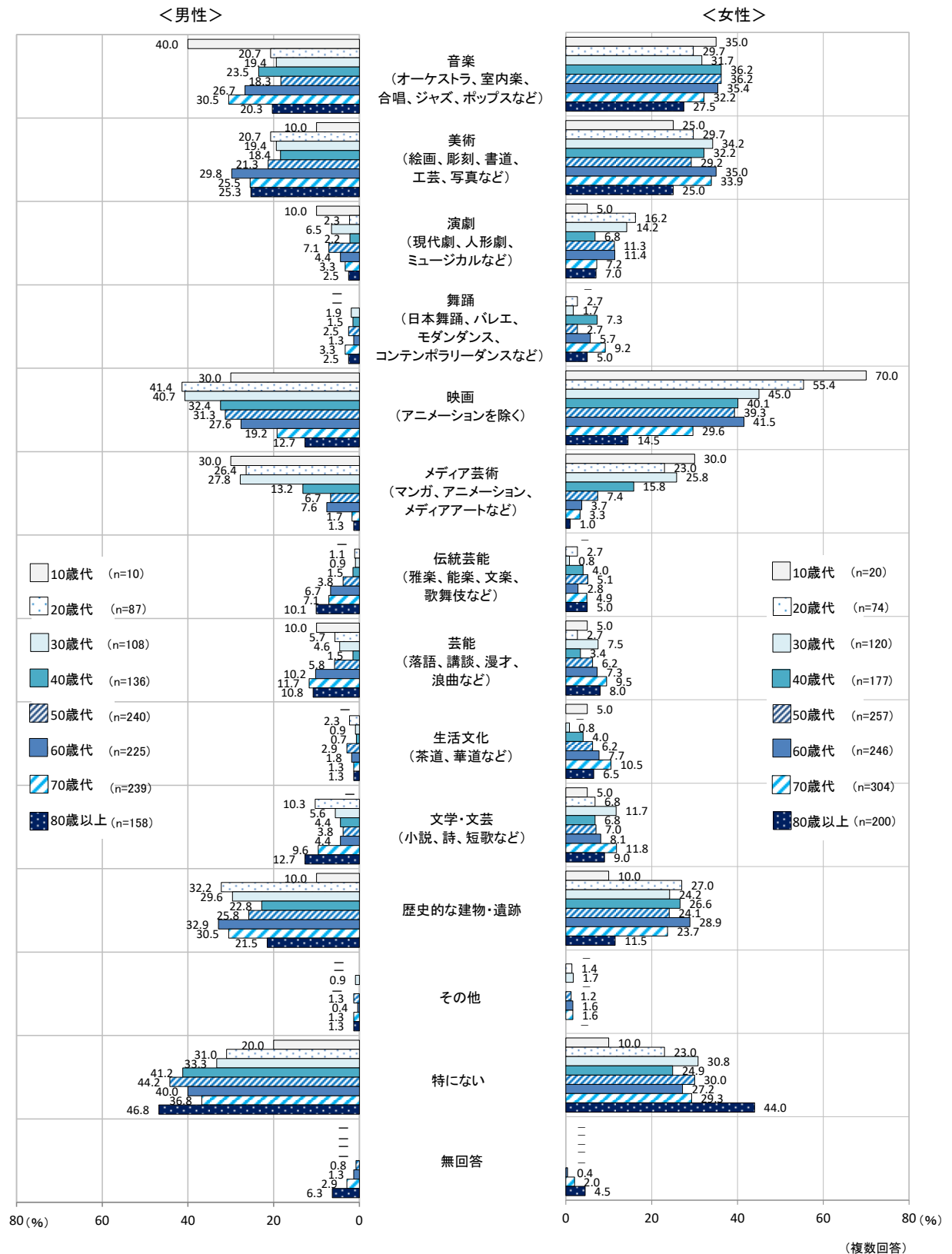
「映画」（32.0%）、「音楽」（28.7%）、「美術」（27.7%）、「歴史的な建物・遺跡」（25.4%）の順で多い。一方、「特にない」（34.6%）がこれに続き、それ以外は1割未満となっています。



◎性別・年代

性別では、女性が「音楽」33.2%、「美術」31.4%、「映画」35.9%と男性（それぞれ23.6%、23.6%、27.4%）を上回り、関心が全般的に高い。男性は「歴史的な建物・遺跡」が27.8%で高め。

年代別では、10歳代、20歳代、30歳代は「映画」と「メディア芸術」が高い。

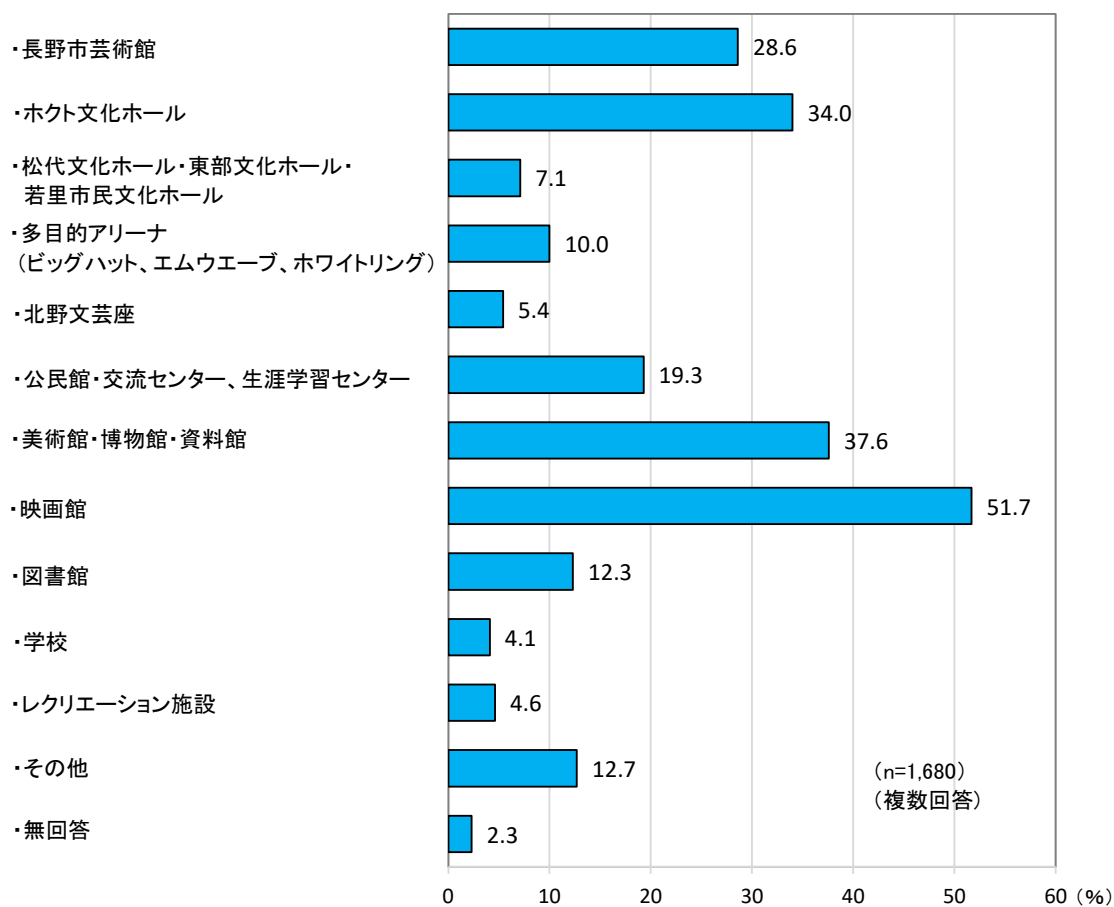


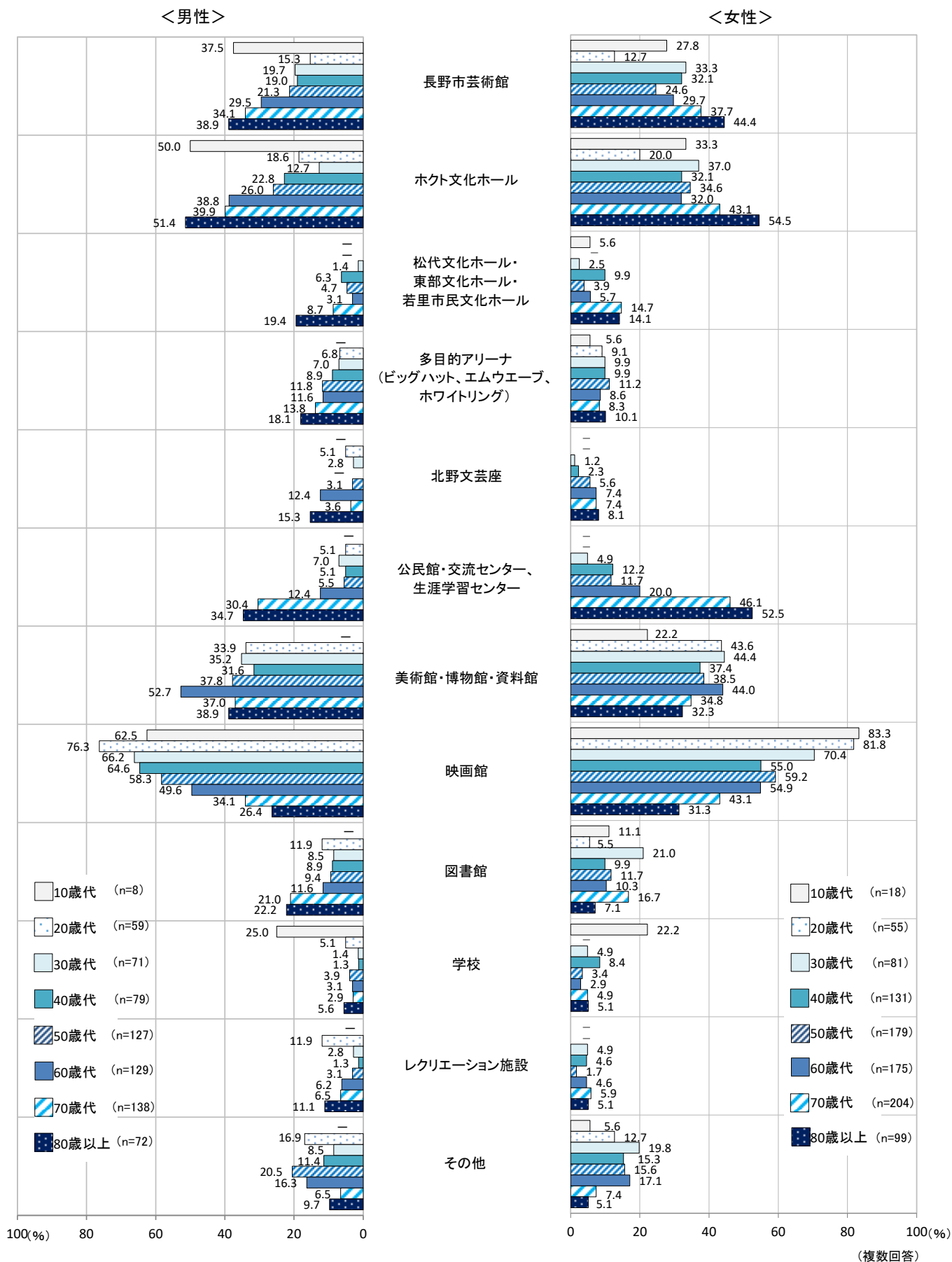
問2 文化芸術を鑑賞、創作・実践した施設について

問1で文化芸術を鑑賞したと答えた1,680人に、鑑賞、創作・実践した施設を聞いた。最多は「映画館」の51.7%で、「美術館・博物館・資料館」が37.6%、「ホクト文化ホール」が34.0%、「長野市芸術館」が28.6%、「公民館・交流センター、生涯学習センター」が19.3%と続く。

年代別では、10歳代、20歳代、30歳代は「映画館」が高く、70歳代と80歳以上は「ホクト文化ホール」、「長野市芸術館」、「公民館・交流センター、生涯学習センター」が高い。

地域別では、中山間地域は「公民館・交流センター、生涯学習センター」が43.1%、松代・若穂地域は「松代文化ホール・東部文化ホール・若里市民文化ホール」が18.2%と高い。



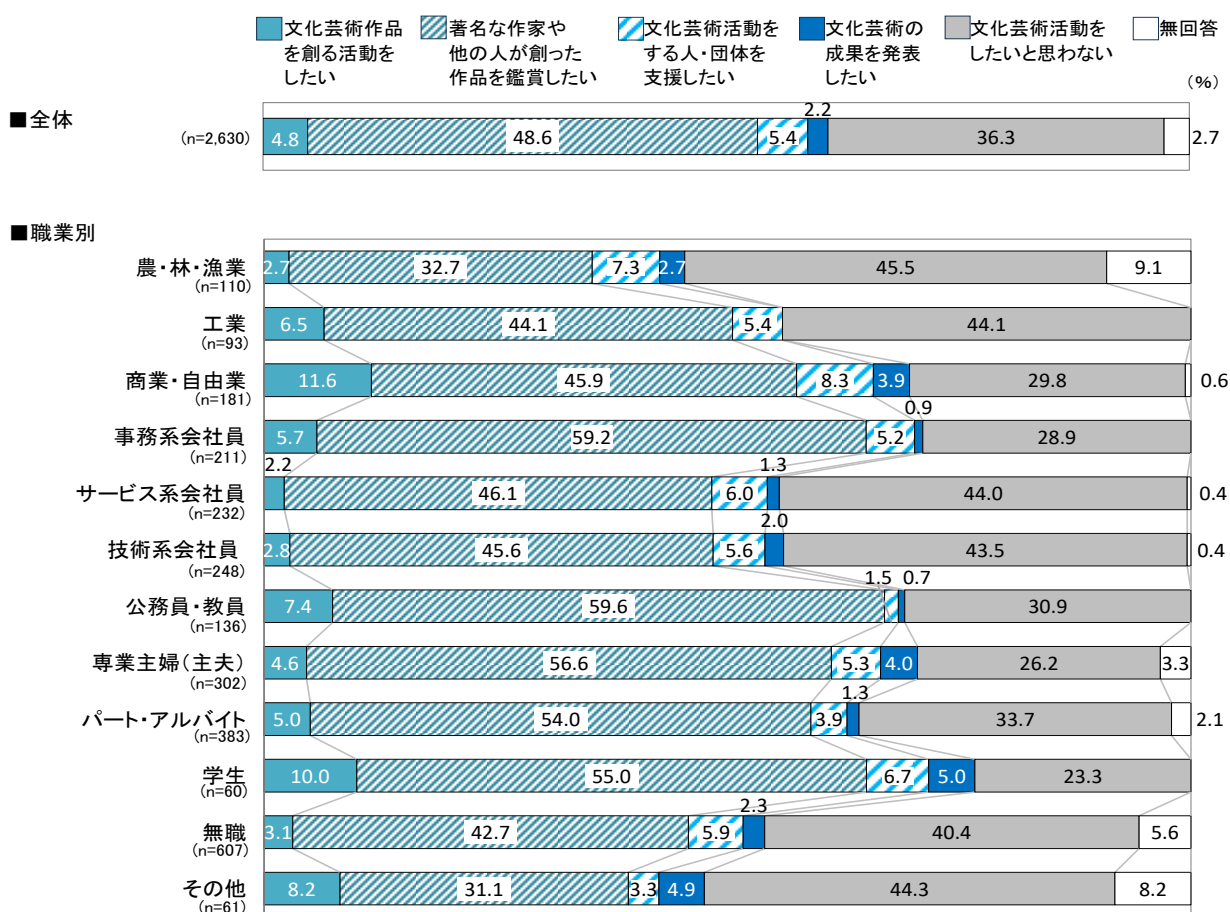


問3 今後の文化芸術への関わり方について

これからの文化芸術との関わりについて聞いたところ、「著名な作家や他の人が創った作品を鑑賞したい」が48.6%と最も多い。「文化芸術活動をしたいと思わない」は36.3%、「文化芸術活動をする人・団体を支援したい」は5.4%、「文化芸術作品を創る活動をしたい」は4.8%、「文化芸術の成果を発表したい」は2.2%と続く。

性別では、女性は「著名な作家や他の人が創った作品を鑑賞したい」が55.4%と男性の41.0%より14.4ポイント高い。男性は「文化芸術活動をしたいと思わない」が44.6%で女性の29.0%を大きく上回る。

年代別では、10歳代は「創作したい」10.0%、「発表したい」6.7%と他世代より高く、表現意欲がやや強いことがうかがえる。



◎前回調査との比較

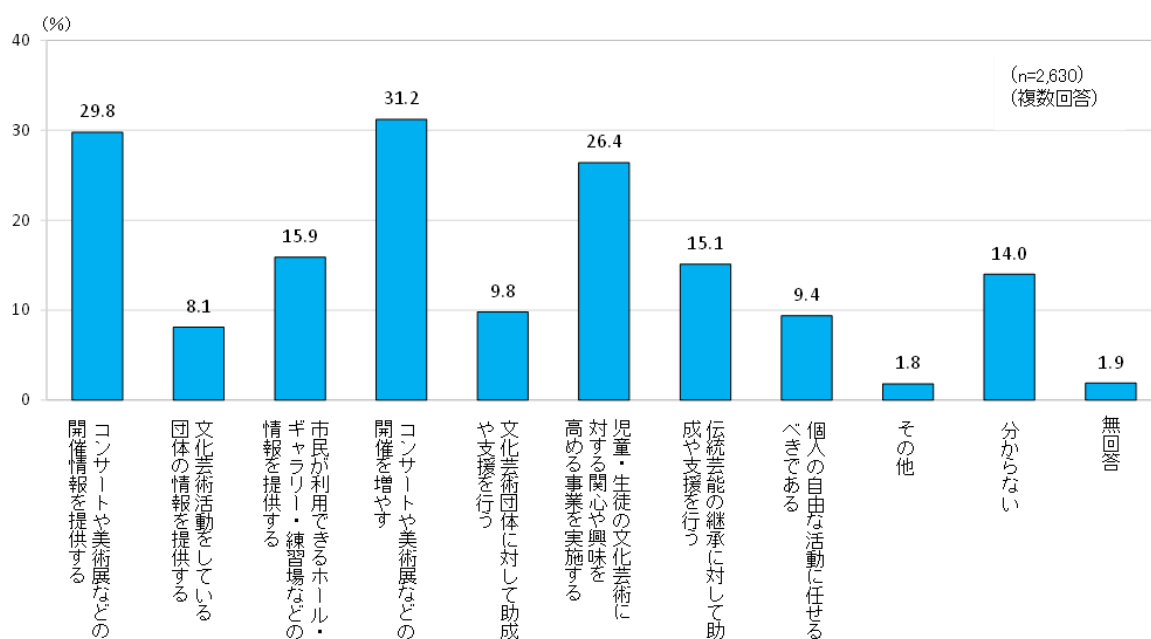
項目	R7	H27	H18
文化芸術作品を創る活動をしたい	4.8%	8.4%	8.3%
文化芸術の成果を発表したい	2.2%	2.6%	6.2%
著名な作家や他の人が創った作品を鑑賞したい	48.6%	55.7%	31.8%
文化芸術活動をする人・団体を支援したい	5.4%	4.6%	7.1%
文化芸術活動をしたいと思わない	36.3%	22.1%	37.4%
無回答	2.7%	6.7%	9.2%

問4 文化芸術活動振興のために長野市がすべきこと

文化芸術活動振興のために長野市は何を实践すべきだと思うか、2つ以内の複数回答で聞いた。「コンサートや美術展などの開催を増やす」(31.2%)が最も多く、次いで「コンサートや美術展などの開催情報を提供する」(29.8%)、「児童・生徒の文化芸術に対する関心や興味を高める事業を実施する」(26.4%)が上位を占め、参加機会の提供や次世代への普及といった「裾野を広げる」方向の施策が高め。

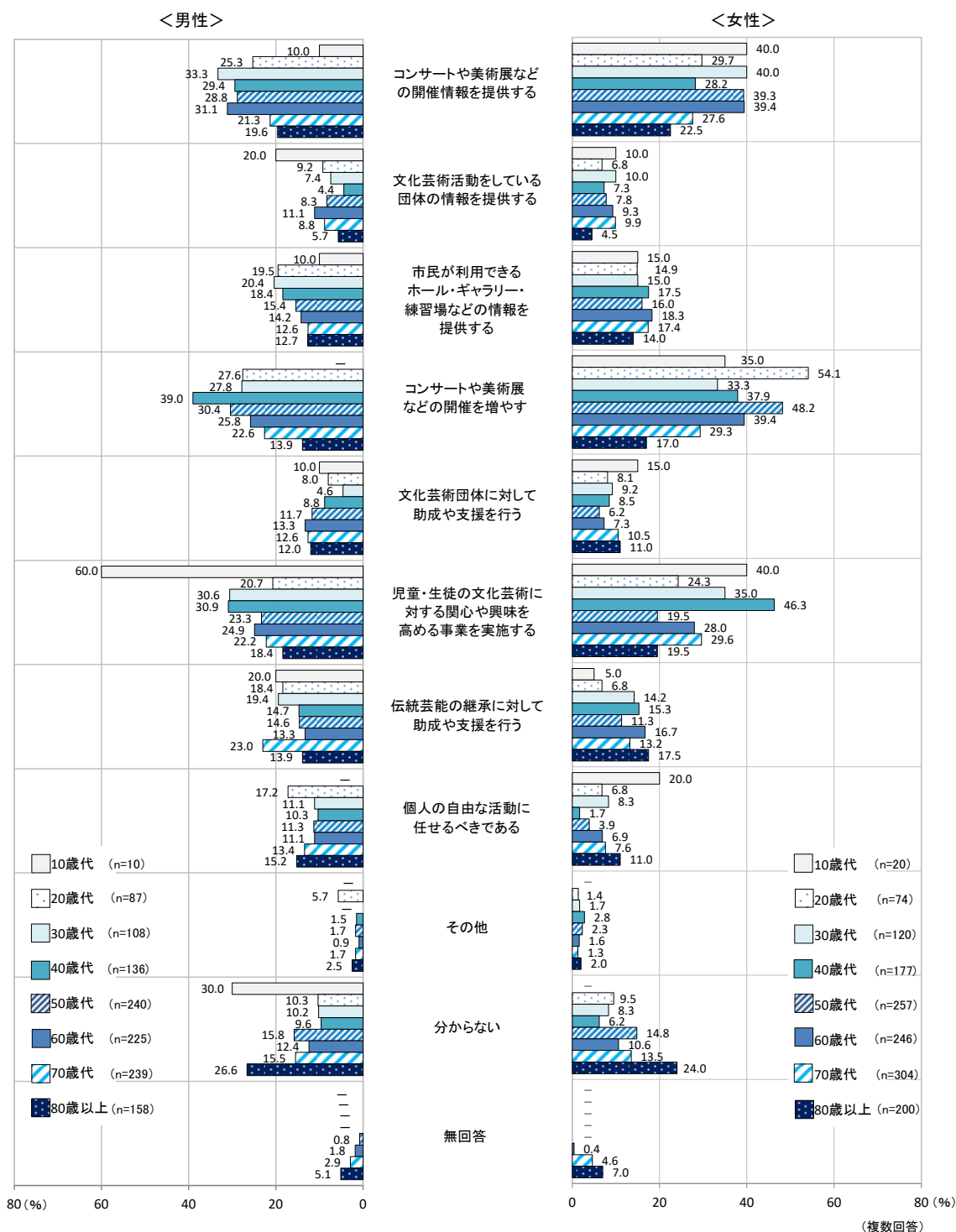
性別でみると、女性は「コンサートや美術展などの開催を増やす」(35.6%)、「コンサートや美術展などの開催情報を提供する」(32.5%)、「児童・生徒の文化芸術に対する関心や興味を高める事業を実施する」(28.5%)が男性より高い。

年代別では、「児童・生徒の文化芸術に対する関心や興味を高める事業を実施する」が10歳代が46.7%、30歳代が33.2%、40歳代が38.9%と高い。



◎前回調査との比較

項目	R7	H27	H18
コンサートや美術展などの開催情報を提供する	29.8%	33.3%	36.4%
文化芸術活動をしている団体の情報を提供する	8.1%	11.5%	15.7%
市民が利用できるホール・ギャラリー・練習場などの情報を提供する	15.9%	22.4%	23.1%
コンサートや美術展などの開催を増やす	31.2%	32.9%	26.9%
文化芸術団体に対して助成や支援を行う	9.8%	10.7%	9.7%
児童・生徒の文化芸術に対する関心や興味を高める事業を実施する	26.4%	22.2%	28.6%
伝統芸能の継承に対して助成や支援を行う	15.1%	-	-
個人の自由な活動に任せるべきである	9.4%	9.0%	9.9%
その他	1.8%	2.2%	2.3%
分からない	14.0%	12.5%	9.7%
無回答	1.9%	3.0%	4.5%
地域文化に貢献した方を広く紹介したり表彰を行うことを充実させる	-	-	5.3%
音楽や演劇などの練習場を増やす	-	-	10.0%



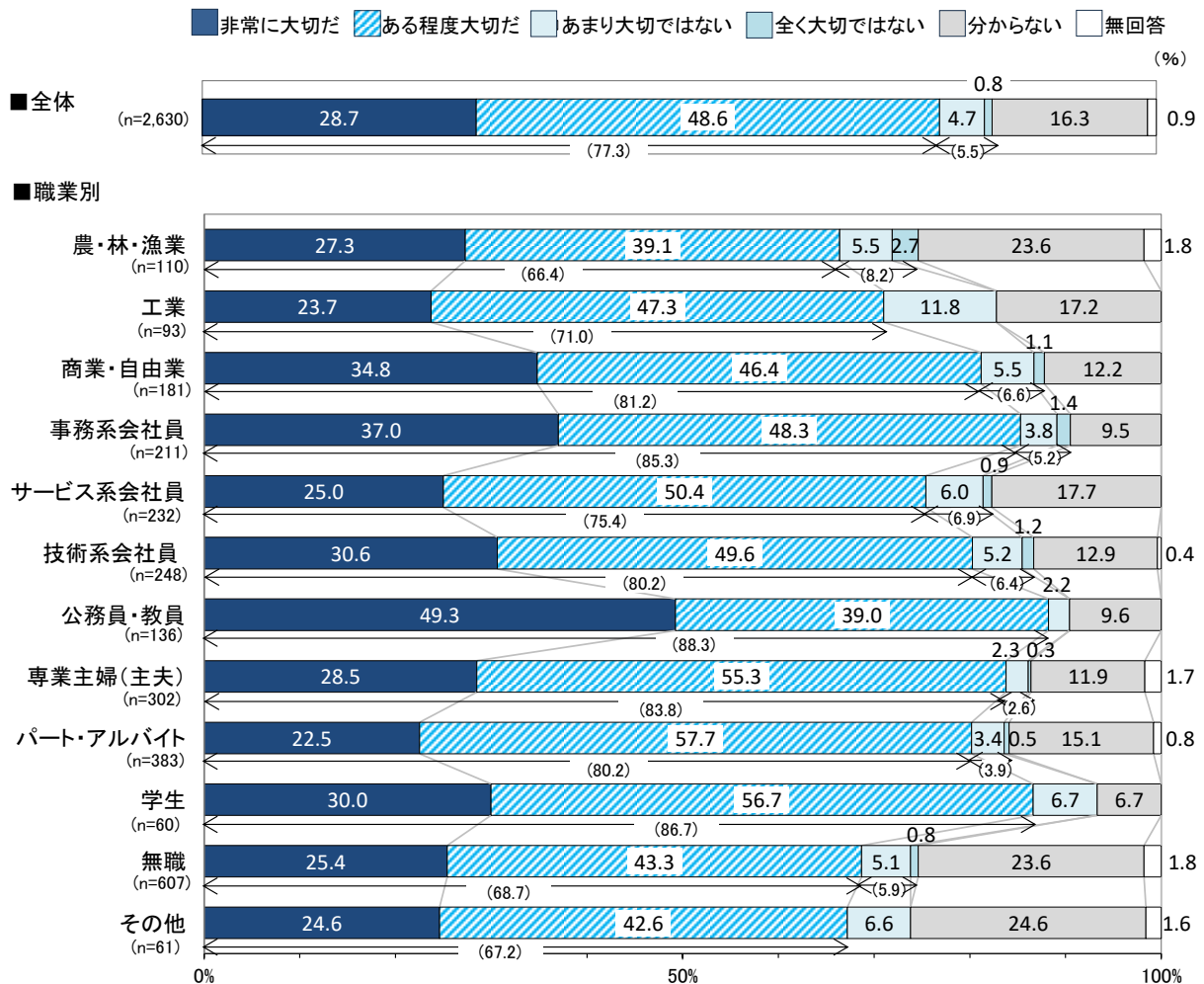
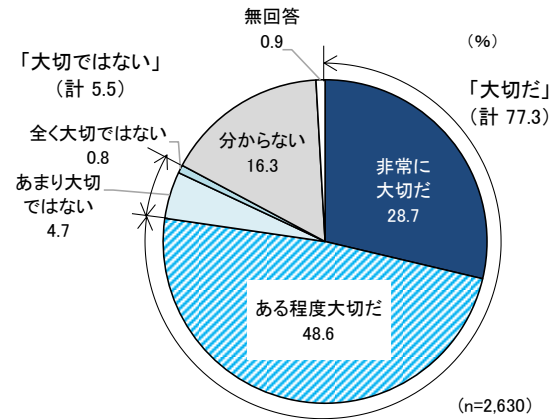
問5 日常生活における文化芸術の体験・実践

日常生活の中で優れた文化芸術体験をしたり、自ら文化芸術活動を行ったりすることについて

て、「非常に大切だ」は28.7%、「ある程度大切だ」は48.6%で、合わせて77.3%が「大切」と回答した。「あまり大切ではない」「全く大切ではない」は合わせて5.5%で、「分からない」は16.3%だった。

性別では、女性は「大切だ」の合計が81.4%と男性より8.5ポイント高い。

年代別では、「非常に大切だ」は30歳代と40歳代で32%台と高め。



問6 行政施策の優先度：市が特に力をいれるべき施策の順位、割合%

項目	R7 (全55項目)
文化の継承による魅力ある地域づくり	44位、3.1%
多彩な文化芸術の創造と活動支援	46位、2.2%

2 アンケート結果（まとめ）

問1

◎文化芸術の鑑賞、創作・実践については、映画（アニメーション除く）、音楽（オーケストラ、室内楽、合唱、ジャズ、ポップスなど）、美術（日本画・洋画、彫刻、書、写真など）、歴史的な建物・遺跡のポイントが高く、多くの市民が文化芸術に親しんでいる一方、「特にない」という意見が最も多く、文化芸術に無関心な方も一定数います。

◎年代別では、男女とも10歳代、20歳代、30歳代と若い世代で、「映画」と「メディア芸術」のポイントが高く、文化芸術が日常生活に溶け込んでいる一方、「音楽」、「美術」については、60歳代、70歳代のポイントが高くなっています。また、文化芸術に関心がないとしたのは、すべての年代で男性が高い状況です。

問2

◎鑑賞等した施設では、映画館が最も高く、ホクト文化ホール、長野市芸術館と続いています。年代別の比較では、10歳代から30歳代で「映画館」が最も高く、60歳代から80歳は、「美術館・博物館等」や「公民館・交流センター等」、それから、「長野市芸術館」、「ホクト文化ホール」の利用が多い状況です。先程の問1から合わせて考察しますと、20歳代、30歳代の文化芸術の楽しみ方は、音楽や美術鑑賞よりも、映画やメディア鑑賞への興味・関心が高いことが伺えます。逆に、60歳代から70歳代は、映画も親しみつつ、音楽や美術鑑賞も同時に楽しんでいることが伺えます。

問3

◎今後の文化芸術の関わり方については、6割以上の市民が、今後、何らかの形で文化芸術に関わりたいと回答しており、多くの市民が文化芸術に関心を持っている一方、活動したくないという文化芸術に関心が低い方も4割弱いる状況です。また、前回調査との比較では、創作活動や成果発表をしたいという方の割合が減少している状況です。

問4

◎市が行うべき文化芸術振興施策としては、「コンサートや美術展などの開催情報を提供する」、「コンサートや美術展などの開催を増やす」、「児童・生徒の文化芸術に対する関心や興味を高める事業を実施する」が前回から引き続き高い割合となっており、市民が文化芸術に触れる機会を増やすことと、きめ細かい情報提供が求められています。

年代別の比較では、特に大きな差は見られませんでした。

問5

◎日常生活における文化芸術の体験・実践では、8割近くの市民が、日常生活において、文化芸術の体験や実践が大切だと考えており、文化芸術が生活に潤いを与える影響力を多くの市民が認識している状況です。

問6

◎ただ、その一方で、行政施策の優先度については、文化芸術に関する施策の優先度は低く、関心はあっても、他の施策と比較すると順位が低くなる状況です。